

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状値の数	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）
伊勢崎市	③学校と家庭の課題	02 放課後等における多様な体験活動	本市における「第2期子ども・子育て支援事業計画」において、「放課後子ども総合プランの行動計画」を位置づけ、次代を担う人材を育成するため、すべての児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう放課後児童クラブ及び放課後子供教室の計画的な整備を進めてきた。放課後子供教室の整備については、全小学校区（23校）の50%以上の小学校で、かつ各中学校区（11校）に1か所以上の実施を目指し、事業の拡充を進め、令和6年度に達成できた。今年度より新しく「第3期子ども・子育て支援事業計画」がスタートし、引き続き、質の高い持続可能な子供の安心・安全な居場所づくりとして、事業を継続していくが場所やコーディネーター・支援員になり得る人材の確保など課題となっている。	H23より放課後子供教室の整備を進めてきており、令和7年度実施は12教室で、14校の児童を対象としている。継続して実施していくにあたり、統括コーディネーターや協働活動支援員を配置し、各コーディネーターが集まる会議を設定することで、情報共有や教室の準備、連絡調整等を行うため、継続してコーディネーターによる会議を実施していく。 参加児童の募集にあたっては、チラシの配付や申込書の回収を学校に頼っているところがあったが、参加児童の募集にあたり、専用フォームによるQRコードでの申し込みとし、デジタル化することで学校の業務負担の軽減を図ってきた。	・統括コーディネーター（公民館で実施している教室については公民館職員）が地域学校協働活動推進員の役割を果たし、円滑に事業を進めていく。 ・情報共有や教室の準備、連絡調整等を行うため、継続してコーディネーターによる会議を実施していく。 ・放課後子供教室の支援員を確保するため、市内小学校に子供を遊わせている家庭に、支援員登録者募集の案内を出し、希望者に登録してもらった。	・放課後子供教室の実施にあたり、本市のさらに多くの児童が放課後の体験活動に参加できる。 ・申込みをデジタル化することにより、学校の業務負担が軽減する。	放課後子供教室の数	12	教室	12	12	03 本年度の目標値を達成し、課題の改善が見られた ・放課後子供教室の整備において、目標の達成まで拡充を進め、公民館で実施する放課後子供教室には、地区内の複数の小学校の児童が参加できるようにした。今後は、さらに多くの児童に参加してもらえるように周知方法を工夫することが必要であり、あわせて指導者（支援員）の確保が課題となる。参加の申込については、デジタル化することで学校の業務負担の軽減ができています。周知や参加者を確保するためには、引き続き、学校の協力を得ていく。